

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812461		
法人名	有限会社 ふぁみりい		
事業所名	グループホームふぁみりい		
所在地	秋田県大仙市四ツ屋字上古道199-1		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出にも力を入れていたが、気候的にも体調の状態的にも年々厳しくなってきてしまっているため、室内行事に力を入れ、味覚、視覚で景色を感じれるように工夫している。季節の旬のものを取り入れたり、行事に見合った食事をしたり「食」の楽しみを味わってもらっている。毎食事前に嚥下体操を取り入れ、日中はラジオ体操を取り入れ、みんなが体を動かせる機会を設けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺は田んぼに囲まれ、季節感を感じることが出来る。働き方改革に取り組んでいて、無駄を省き、効率よく仕事に取り組み定時に帰れるよう努力しているホームである。運営推進会議では、協力医療機関の医師に参加してもらう為に開催時間を夕方にするなど工夫した取り組みが見られる。また、一般の地域住民の参加もあり、広範囲に渡りメンバーが選出されている。看取りについては、契約時に家族に説明した上で協力医療機関の協力を得て実施している。家族との繋がりについては、毎月送る手紙に本人の生活の様子が分かる写真を取り込み、家族に喜ばれるなど繋がりを大切にしている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年12月20日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一日一笑は、職員が先駆けて笑顔で過ごしていることが大事だと思う。職員の笑顔から利用者様の笑顔につながるよう努めている。	ホームの理念を、いつでも確認できるようにホーム内の至る所に掲示していて、理念にある「一笑」を、利用者との関わりの中で明るく接することで実践している様子を確認することができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍より一気に減少してしまい、今後回復できたらと思う。	コロナ禍以前は、地域の祭りを見に行ったり、地域の人に畑を手伝ってもらうなどの交流があったとのこと。これからコロナ禍前のように交流が出来るよう検討しており、前向きな姿勢が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	貢献しているとは言えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	紙面から対面に代わり、直接の意見も聞ける状況になった。今後もいろんな意見を取り込んで向上できればと思う。	協力医療機関の医師や家族、利用者、地域住民等の参加もあり、メンバーは充実している。会議の時間も参加者の都合に合わせ、夕方に開催するなど工夫した取り組みが見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から…というほどこまめな連絡等は行っていないが、会議などを通じてや、なにかあった場合は相談し協力を得ている。	運営会議に参加して貰っており、地域で発生している感染症などの情報提供があるほか、生活保護を受け利用している利用者の情報提供をしている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をしながら知識を共有できるようにしつつ、普段目につくところに禁止対象の行為を貼り常に念頭に置くよう心掛けたり、小さな傷ひとつに対してもその都度申し送って話し合っている。	研修等を通して職員に周知しているほか、他で発生した事例を元に勉強会を実施し、身体拘束や虐待のないケアに努めている。現在1名身体拘束の必要な利用者があるが、マニュアルに沿って行われており、家族からの同意書も貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身内で利用していたり、利用者様でも一名の利用があるため幾分の理解はある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入退去の説明をしっかりとしている。特にこうなった場合は退去の理由に当たること…はしっかりと説明し、納得を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	意見箱は配置しているものの、意見を入れる方がおらず…面会等の際にまた、手紙等で家族との会話をするようにつとめている。苦情が出たり何か意見を頂ければ迅速に対応するように努める。	家族からの意見等の聞き取りについては、面会の際や、毎月郵送している請求書に手紙を同封し、意見や要望を聞くようにしている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	自己申告書、自己評価や代表者との面談にて意見や提案を聞く機会を設けている。全員とまではいかないが数名は反映されている。	申し送りの後にコーヒブレイクの時間を設け、気軽に話せる雰囲気の中で意見を聞いている。出された意見をまとめ、月1回職員会議で報告し、意見を反映させている。また、代表者と年1回の面談があり、自己評価書等をもとに提案する機会がある。	
11		○同業者との交流を通じた向上	代表者が…といわれると非積極的であると思う。管理者が他施設との交流の場面を設け、努めている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が特に困っていないといったケースが多い。身体的精神的な行動や発言から不安に対する思いを迅速に理解するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人よりもご家族が困ってしまって…というケースが多く、私たちがサービスして行くうえでも貴重な発言が多い。よく聞き良いケアができるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を囲んだり、ソファーにくつろいだり、お茶を飲んだりする時間を設けながら関係を築くようにしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、手紙等でもお願いし、可能な方は外泊したり外出したり墓参りしたり…と依頼しているが実際実現している方は少ない。面会はコロナ禍であっても行っていたが、それを理由に来ない方もいた。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	電話で話をしたり近所の方が面会に来てくださったりしている方もいる。	感染予防に努めながら面会者を受け入れる他、電話による親戚等との会話、近所に住んでいる以前お世話になった人の家に連れて行くなど関係の継続に努めている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	とても実践している。不仲な利用者はいるのでお互いが気持ちよく過ごせるように様々な工夫を日々過ごしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了してもご家族様が遊びに来てくださったり、いらぬ布や新聞紙を持ってきてくださったりしている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	どうしても入浴や食事はこちら側の時間になりがちであるが、朝なかなか起きれない方がいたりする場合は遅めの提供をしたり、手伝いたい人は手伝い、したくない人はゆったりと過ごせるようにしている。	日常生活の中で様子を観察しながら、本人の思いをくみ取るようにし、食事や入浴など本人の意向に沿った対応をしている。購入したいものがあれば、職員が付き添い買物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生きがいなどは重視するようにしている。年に一回アセスメントを行い、状態、状況の把握に努める。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎朝申し送りを密に行っており、そこから反映する機会が多い。個別には計画しているが最終的にみんなが安心できるような暮らしであり、その中でサービスの個別化できるようにしている。	申し送りなどで出た意見をもとに見直しを行っていて、安心して楽しく生活していくことを目標に介護計画を作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	特記事項を共有し、問題となる部分、本人の不安な材料を見つけ見直している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在なかなか困難に感じている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はそれぞれの専門の科に通うことができる。(現在、木村内科、なごみメンタル、整形、厚生医療皮膚科、市立大曲病院など多様である。)	かかりつけ医に看護師が付添い、それぞれ専門の科を受診している。薬が変わった際には、薬剤師から説明を受ける等連携が図られている。受診の際は、日常生活の様子や体調について、付き添いの看護師に申し送りしている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も週一回以上来てくださり、排便の状態、皮膚の状態、受診介助など多様に見ていただいている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や医師、看護師とともに情報を共有し、関係作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に一度話し合い、その時が近づいたら再度話すということを伝えている。重度化した場合は家族との信頼が一番であり、本人が苦しまずに過ごせる状況を実際に今まで検討し取り組んだ。	利用契約の際に、終末期等に関する取り組みを説明した上で看取りをおこなっており、状態の変化等があれば協力医療機関の医師に駆け付けて貰える体制が構築されている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に教わりながらある程度の応急手当の訓練を行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している施設があるため、そこに協力を得るようにしている。	年2回消防署立ち合いのもと訓練を実施しており、訓練の際には隣接している施設から駆け付けて貰える協力体制が築かれている。非常時に備え、発電機の操作方法についてもホーム内で訓練している。	非常時の備蓄品の管理体制が十分といえないことから、備蓄品の数量がいつでも分かるよう管理方法を検討されることを期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の状態に見合ったレクリエーションや手伝いを心掛け自信を失わないような暮らしを心掛けている。	申し送りや日々の支援の際、誰のことを話しているのか他利用者にわからないよう配慮しているほか、トイレでの排泄の介助の際、一緒に個室に入らないなど、人格を尊重した支援を行っている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人差はあるが、興味のある人は一緒に買いに行ったり自身で衣類を選んでもらったりしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭く人、食器を拭く人、食材を切る人、食器を片付ける人などできる人にできることをお願いし、一緒に行っている。	肉や魚などが嫌いな人には、形が分からないようペースト状にするなど工夫している。食事の手伝いが可能な人には、テーブル拭きや食器の片付けなど手伝ってもらっている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔内の状態、嚥下機能の状態に応じ、形状を変えつつも同じものが食べられるような工夫をしたり、食べれないものがある場合は代替え提供したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に必ず実施していた。夜は義歯の消毒を行う。歯のない方は薬剤で口をうがいするなどしている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、極力家族の負担(おむつ代)を軽減できるよう心掛けている。個人に合わせたパットを装着し、清潔に保てるようなトイレ誘導も心掛けている。	排泄のチェック表を活用しながら個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄が出来るよう支援している。個々の状態に応じたリハビリパンツと尿取りパットを活用しながら支援している。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部、歩行の促し、繊維食、海藻類を取り入れ水分を好まない方にはゼリー状にしたり甘くしたりし飲用できるようにしてもらっている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	困難なのが事実。時間帯は決めている。しかし一人一人がゆったりと入れるよう一日3名ほど年、セカセカした入浴は行わないようにしている。週3~4回は入浴している。	個々の健康状態に合わせて、入浴回数を調整し支援している。可能な限り自分でできる所は自分で洗ってもらい、できないところは支援している。ゆっくり入ってもらうため、1日の人数を決め実施している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の行動や食事摂取などに影響が出る場合などは服薬も必要としながら、本人が一日を気持ちよく過ごせるように支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状が改善してきたら減薬するなどの医師との連携を密にし、過剰な内服をできるだけ避けている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出好きな人、買い物好きな人、花が好きなどには外出機会を設け一緒に楽しむようにしている。畑仕事が好き人には積極的に手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の人に会いたかったり、家に帰りたかったりする方は家族の方の協力も得ながら行っている。職員と一緒に買い物に行ったり、散歩にいったりも要望にできるだけ添っている。	コロナ禍前は季節感を感じてもらうため、花見、紅葉、ダリア等を観に出かけていた。最近では、希望があれば、買物と一緒に出かけたり、天気がいい時にはホーム周辺を散策したりしており、家族の協力が得られる人は帰宅などもしている。月2回以上楽しめる行事を計画している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	そのようにしているが、何か欲しい…買いたいという要求を持つ方が少ない。お金を預かっていることは常に話している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	田んぼが広がっているので季節感はわかりやすい。排泄物の臭いは特に注意して気にかけているが、音に関してミキサー食の方がいるためどうしても食事前にガーガーとなるのを気にする利用者さんはいる。	季節を感じられるよう、リビングや廊下に貼り絵や折り紙で作った作品を随所に掲示している。健康管理のため、空気清浄機や加湿器が設置されている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをしたりしながら気の合うメンバーを集わせており、言葉のトラブルになりそうな場合は、別の場所に…などと一日の中でも工夫して過ごしていただいている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こだわりのある方にはすべて部屋のものをもってきてもらったこともあった。現在はかけた布団などはもってきている方もいる。	使い慣れた物を持ってきて貰っているが、決して多くない。室内は循環型暖房やエアコンが設置されている。部屋には、家族の写真や貼り絵などが飾られている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況、状態に応じて環境を工夫している。テレビを設置していた方がテレビをテレビと認識できずよけて危険な場合も多々あり撤去した例もある。		